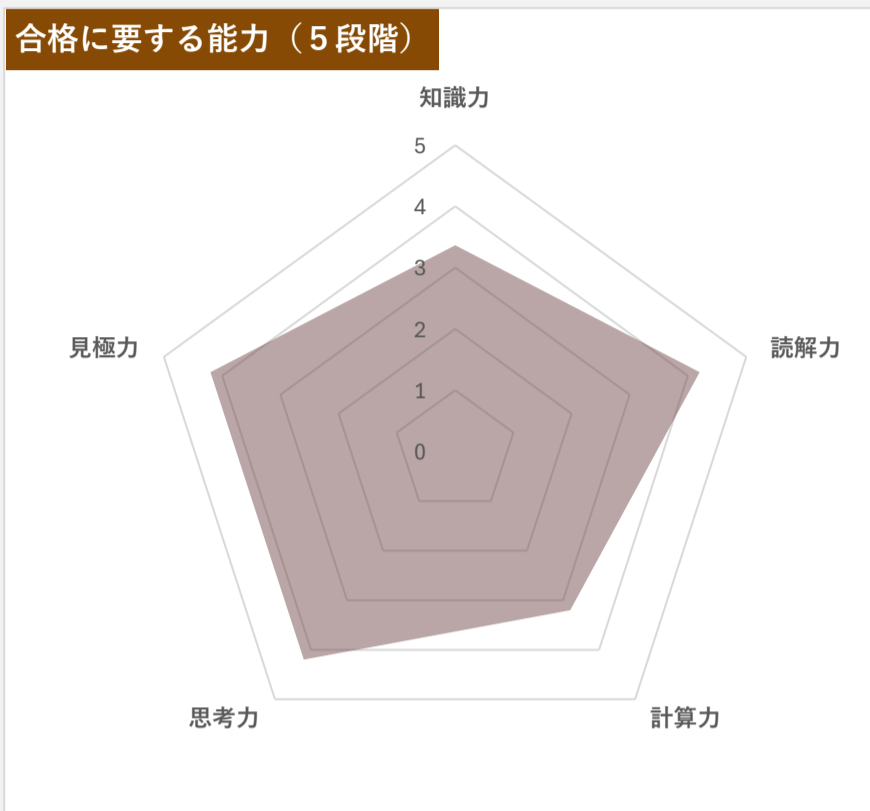


総合分析

試験区分	一般
------	----

制限時間	60分 (理科 2 科120分)	大問数	全 3 問
------	------------------	-----	-------



出題分野

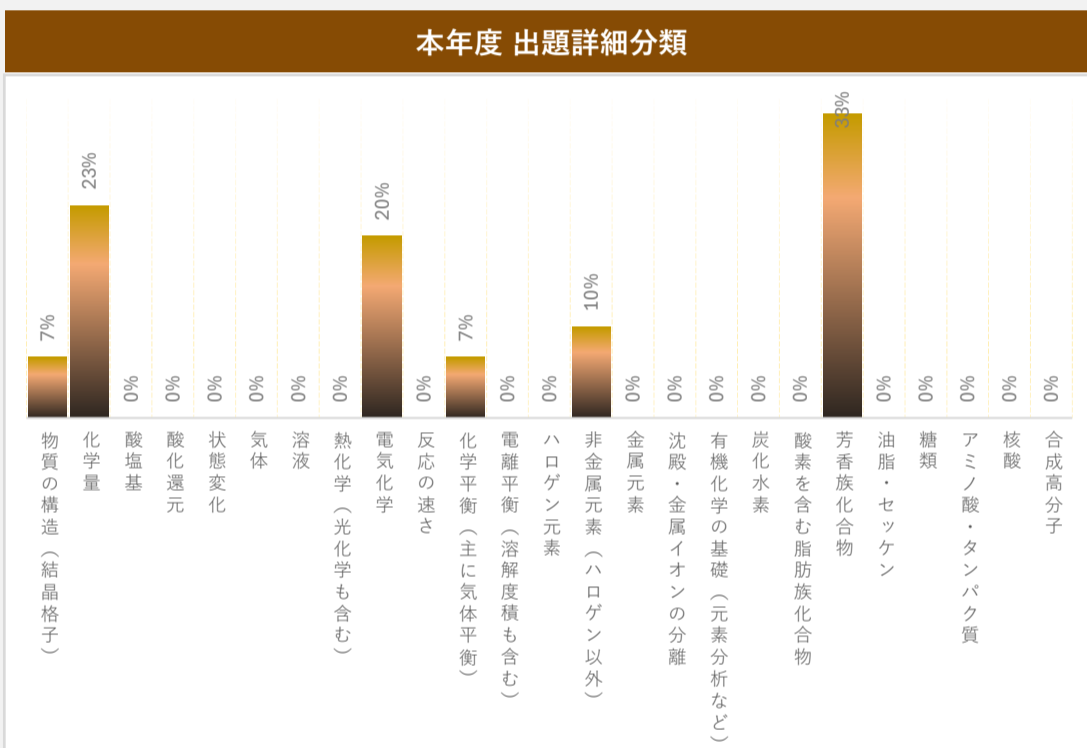
理論	57%
無機	10%
有機	33%

本年度出題テーマ一覧

第 1 問	芳香族化合物の構造決定と分離
第 2 問	陽イオン交換膜法, アンモニアの分解
第 3 問	気体反応の量的関係, オストワルト法

本年度 解答形式

論述	100%
----	------



合格に要する能力 (5段階)

能力	スコア	説明
知識力	3.2	物質, 反応, 解法の知識
読解力	4.0	問題文から必要な情報を抽出できるか
計算力	3.0	手際よく正確に計算できるか
思考力	4.0	基礎知識や問題文から推測する力
見極力	4.0	解きやすい問題を選択する力

特殊問題の有無	数値計算あり	グラフなし	正誤問題なし	理由記述あり	図表なし
---------	--------	-------	--------	--------	------

特記事項	特になし
------	------

総合評価

難度	3.6	最難を 5 とする問題自体の難度	やや難しい	一次合格に必要な正答率 (予想)	80%
分量	70分	完答に要する時間 (制限時間は60分)	やや多い	高い正答率を要する	

入試の特徴と対策
強い特徴や偏りがないバランスがとれた入試である。特別な対策は必要とせず標準的な高校化学の学習でよい。

入試から見る 大学が求める学生像
大問3の後半が読み取りにくく、制限時間内に完答した受験者は少ないであろう。ただし、それ以外は標準的な問題なので、偏差値を考えると、75~80%程度は得点したい。基礎学力を有するとともに、初見の問題でも問題文を読み取って化学的に考察する能力を求めている。